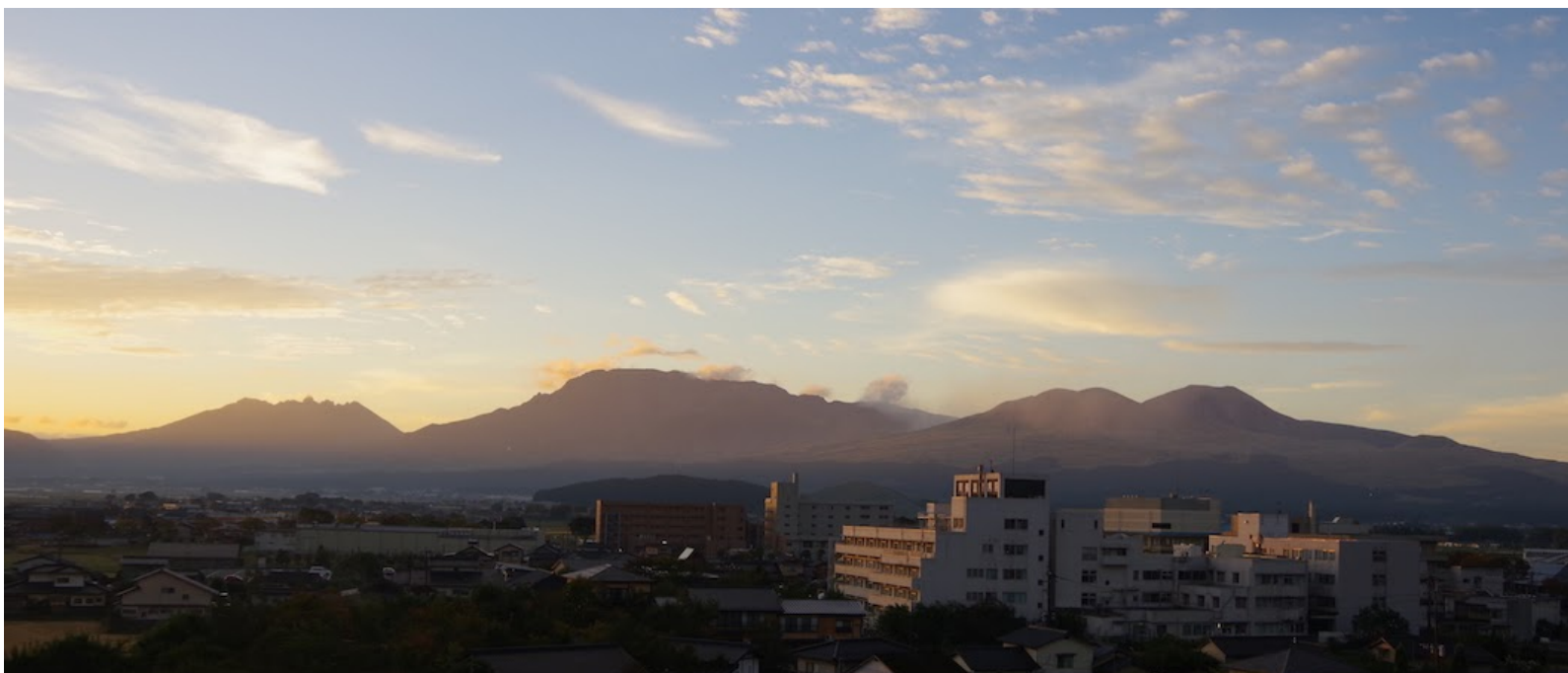


# 次世代火山研究者育成プログラム 2020年度火山防災特別セミナー

2020年10月20～22日

## 阿蘇において火山防災特別セミナー が開催されました



### 概要

次世代火山研究者育成プログラムの一環として、2020年10月20日から22日にかけて阿蘇において火山防災特別セミナーを開催しました。

火山防災特別セミナーとは、プログラム受講生と火山防災や監視業務などを担う実務者が、火山防災施策の現状を理解するとともに、災害軽減を図る効果的な方法を考察する機会として開講しています。火山現象や防災に関する基礎的な講義の他、活火山の巡検や総合討論を約3日間で実施します。2018年度は雲仙岳、2019年度は御嶽山・草津本白根山を事例として火山防災特別セミナーを開催しました。

本年度のテーマは「多項目観測の火山防災への活用」の最先端の事例である阿蘇火山をフィールドとして、「火山研究者と実務担当者の連携」を検討すべく、火山現象に関する知識の共有や、実務担当者から火山研究者への要望などに関する議論が行われました。地方自治体（12団体）、民間企業（4企業）、国の機関（3機関）などからの参加者、火山研究者、プログラム受講生（11名）など、総勢47名が参加しました。なお、本セミナーは十分な新型コロナウイルス対策を講じたうえで実施しました。

## 火山現象に関する基礎講義

初日の午前中は、冒頭に西村太志教授（東北大学）よりセミナーの趣旨説明を行った後、中川光弘教授（北海道大学）による「火山と火山噴火現象の基礎」、西村教授による「火山の観測」、地引泰人准教授（東北大学）による「社会科学からみる火山防災」、西出則武特任教授（東北大学・元気象庁長官）による「火山の監視と火山情報」に関する講義を行いました。各講義の終了後には、講義内容の評価アンケートが実施されました。

今回の火山防災特別セミナーの講義は「火山防災実務担当者に知ってもらいたいと火山研究者が考えている基礎知識」を念頭に講義内容を組み立てました。火山研究者と実務担当者のニーズのすり合わせを行うため、その講義内容を「すでに知っていたか」と「わかりやすさ」についてアンケート形式で評価してもらいました。

## 地方自治体からの業務紹介

午後は、地方自治体の担当者による業務紹介を行いました。

今年度の火山防災特別セミナーの業務紹介は、火山に関する講演の主催や参加、研修への参加や、過去の防災訓練（参画する火山防災協議会が主催でも可）の想定シナリオや実施概要のまとめを依頼しました。この依頼の趣旨は、現状で道県の火山防災担当者がどのような情報・知識・理解をもっているのかを整理することを目的にしました。また、各紹介では火山研究者への期待や要望も御提案いただきました。

業務紹介をいただいた団体は以下のとおりです。

- ・北海道 総務部危機対策局 危機対策課
- ・宮城県 危機対策課 防災対策班（オンライン形式で発表）
- ・群馬県 総務部 危機管理課 危機管理・防災係
- ・神奈川県 暮らし安全防災局 防災部 災害対策課
- ・山梨県 防災局防災危機管理課 火山防災対策室
- ・長野県 危機管理部 危機管理防災課 防災係（オンライン形式で発表）
- ・岐阜県 危機管理政策課 山岳遭難・火山対策室 山岳遭難・火山対策係（火山担当）
- ・富山県 総合政策局 防災・危機管理課 安全なまちづくり班
- ・熊本県 知事公室 危機管理防災課
- ・大分県 生活環境部 防災局 防災対策企画課

## 民間企業からの話題提供

次に、火山研究人材育成コンソーシアム構築事業に参画している民間企業（4社：アジア航測株式会社、株式会社NTTドコモ、東京電力ホールディングス株式会社、九州電力株式会社）より、火山防災に関連する話題提供がありました。

火山防災特別セミナーとしては、今回初めて民間企業に参加していただきました。民間企業からの話題提供では「広域性」を各社共通のキーワードとしてして、緊急撮影、全社的な

---

災害対応の体制（態勢）、カルデラ火山モニタリングなどについて話題提供をいただきました。

## 演習

初日の最後は、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト 課題D3の「火山災害対策のための情報ツールの開発」に関する演習を行いました。参加者を対象に、防災科学技術研究所の宮城洋介主任研究員、山梨県富士山科学研究所の吉本充宏主幹研究員、久保智弘研究員による災害発生時の対応に関する演習が実施されました。

## 阿蘇に関する講義と話題提供

二日目の午前中は、阿蘇火山に特化した講義と話題提供が行われました。まず、宮縁育夫教授（熊本大学）による「阿蘇火山の地質と噴火史」、大倉敬宏教授（京都大学）による「阿蘇火山の観測」に関する講義を行いました。続いて、阿蘇市 総務部 政策防災課 防災交通係、気象庁 福岡管区気象台火山監視・警報センター 阿蘇山火山防災連絡事務所、環境省 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所より、阿蘇山の火山活動の監視体制や防災対策、環境保全や観光との関係についての話題提供がありました。最後に、午後の巡検に向けてガスマスクの装着方法などの説明がありました。

## 巡検

午後は巡検に出発しました。阿蘇火山防災会議協議会などの関係機関への許可をいただいた上で、中岳火口周辺において巡検を行いました。大倉教授、宮縁教授による最近の噴火活動などに関する解説に加え、阿蘇山の火山ガスのモニタリングと避難誘導體制の説明を受けました。また、2016年噴火で埋まってしまった待避壕を見学しました。その後、米塚および上米塚に移動し、スコリア丘という火山地形の特徴を観察しました。下山後、熊本地震の震災遺構である旧東海大学阿蘇校舎を見学しました。最後に、復旧工事中の京都大学火山研究センター近くの南阿蘇復興公園に移動して露頭を観察し、地震発生による土砂崩れが火山灰に影響されていたとの説明を聞きました。

## 総括

最終日の三日目は、セミナーの全体を振り返る総括を行いました。まず、プログラム受講生による、学生の視点での要点整理や所感などを班ごとに発表しました。また、初日の講義についての内容評価の集計結果を発表し、それをもとに全体的な議論を行いました。さらに、セミナーの振り返りと今後に向けて議論しました。最後に、西出特任教授より閉会の挨拶がありました。

